

各グループの取組と課題

6) うらしまたろう

代表：藤井健次

「うらしまたろう」は、高齢者から児童までを対象に活動するグループです。現会員は12名で、老人福祉施設等を会員の持ち芸を組み合わせたオリジナルプログラムで、年間30回程度の慰問訪問活動や、イベント参加の活動を行っています。

1. グループの今後の活動方向と課題：オリジナルプログラムを更なる多様化と、魅力UPが出来るように会員の自己研鑽。年々平均年齢の上昇が課題。

2. 最近頑張っていることなど：クラブのモットーとしてボランティア訪問時には、頑張るのではなく、「顔晴りましょう！」を愛（合）言葉にしています。



8) 折り紙グループ悠々

代表：榊田みどり

私たち折り紙グループ悠々では、様々な行事に参加させて頂いております。5月5日子供の日にしあわせの村で行われる「わ」の行事で新聞紙でのカブト作りや、夏休み子供塾での動物他、水の科学博物館でのイチゴバッグ、KSCでの作品展示など…。外部ではクリスタルでの作品展示にも参加しています。

毎月第2金曜日に定例会を行い、会員の折り紙研修とボランティア先での作品習得、ボランティア先に行く方を決める打ち合わせをしています。

北区会をはじめ、児童館の小学生に折り紙を教える嬉しいとの依頼も受けております。今後悠々の名のごとくいついつまでも皆様から喜んで頂きますよう精進して参ります。



7) おはなし糸車

代表：阪田輝夫

平成19年4月結成、毎月第三木曜日の定例会では、詩や文章を「生き生き」と表現できる朗読を目指し正しい発声、アクセントと共に声を出し作品に触れる楽しさ、表現をする楽しさを学びつつ学んだことをボランティア活動に生かそうと朗読・紙芝居・エプロンシアター・大型絵本の読み聞かせ等にチャレンジ、保育所、小学校、高齢者の施設を訪問しています。

児童施設では訪問する度に成長している子ども達に触れ圧倒されることも度々、素直にすくすくと成長する眼差しが美しく眩しく感じられます。

高齢者の施設では昔懐かしい、金色夜叉や愛染かつらなどでは思わず歌を口ずさむ方もおられます。

結成当初は市販の紙芝居を使っていましたが最近は手作りの紙芝居の作成に力を入れながらも活動全体の



資質向上を目指し更に学んでいきたいと思えます。

9) わらい届け隊

代表：古後健一

(1)「見せる」から「一緒に」へ

私たちは、地域社会に笑いと元気を届けるボランティアグループです。全員がさまざまな得意芸を披露しますが、いつも心がけているのは、ただ「見せる」のではなく「一緒に参加して楽しんでもらう」ということです。子どもたちは勿論、お年寄りの介護現場からも最近とくに寄せられる要望でもあります。

(2)楽しくチャレンジ

私たちは「無理せず楽しく」をモットーとしながら、同時に「チャレンジ」も忘れまいと考えています。芸を見せる立場としては、どうしても慣れた技に頼りたくなるものですが、毎回同じものでは、見る方も演じる方も飽きてき



ます。例会では毎月、新しいジャンルに挑戦していますので、皆さんも一度覗いてみませんか。